

令和6年新年賀詞交歓会 水内大使挨拶

令和6年1月17日

令和6年在オーストリア日本国大使館の新年賀詞交歓会を開催するにあたり、御挨拶申し上げます。

始めに、ともに黙祷いただきありがとうございました。1月1日に発生した能登半島地震が思いのほか大きな被害をもたらしていることは御存じの通りです。ここウィーンの地からできることには限りがありますが、当地の日本人社会の皆様とともに、失われた尊い命に心から哀悼の意を表すとともに、被災された方々に、少しでも、ともに思いを致すことができればと希望する次第です。こういう状況で新年の賀詞交歓会を開かせていただきますが、私としては、新たな年の始まりにおいて、オーストリア在住の同胞の皆様が心をつににする機会を持つことはやはり必要であり、望ましいことでもあると思っております。あとで鏡開きもすることとしました。それは、年神様にお供えた鏡餅やお酒を、俗世界の我々が口にさせていただくことのお許しを乞う、というのが本来の鏡開きの意味合いであり、日本の伝統であると理解しています。許可を得ずに宴だけ始めるのはよろしくありません。年神様への感謝とともに、被災地の方々においてもこの一年運が開かれるように、という祈りをしめやかに込めたいというのが私の希望です。以上御理解いただければ幸いです。

昨今の世界各地の状況について、簡単に申し上げます。

ウクライナにおける戦争は終わる兆しがなく、ガザにおけるイスラエルの軍事行動も相変わらずです。日本の周辺でも、北朝鮮情勢しかり、台湾情勢・南シナ海情勢しかりです。外交に携わる者として、こうした状況を乗り切るとともに、皆様の生活やビジネスがつつがなく継続する、という、当たり前のことを実現すること自体、容易ではない大きな課題であると認識しています。

幸いここオーストリアにおいては、昨年は皆様の御賛同も得て、ウィーン万博 150周年の一連の行事を催すことができました。また、来年の大阪関西万博についても、日本国内ではいろいろな雑音があり、またオーストリアがその余波を受けたことも事実です。しかし、オーストリア側は一貫して、来年の万博を日オーストリア間のビジネスをはじめとする関係強化の機会であるとポジティブに受け止めてくれており、私はそのことに深く感謝しています。この機会を逸することなく、日本とオーストリアの関係がさらに緊密になるよう、大使館一同、励んでいきたいと思っております。

去年は、私にとり青春の一部でもあった琵琶湖とオーストリアが結びついたこと(滋賀県とブルゲンラント州)、またその際私自身もお役に立てたことも嬉しい出来事でした。来週は、亀岡市長・市議会議長が Knittelfeld 市との姉妹都市提携 60 周年のために来訪されます。旺盛な市民レベルでの交流も日オーストリア関係の貴重なアセットであり、皆さんとともに盛り上げていきたいと思っています。

最後に、日本人社会について触れます。少子高齢化は日本国内だけの問題ではなく、世界中の日本人コミュニティが直面する課題です。日本人学校の問題等、当地においても我々自身のサステナビリティを考えなければなりません。ビジネスと若い世代の活性化はそのためのカギだと思います。本日は、長くこちらにおられる方に加え、新たにオーストリアに拠点を設けられた方、また地方に住んでいらっしゃる方、日本人以外の日系企業代表の方にも参加いただきありがとうございます。心から感謝します。以上のような意味で、皆さんの交流が深まる機会になればと思う次第です。

冒頭申し上げたように、今年は日本にとり特に厳しい年明けとなりましたが、皆で力を合わせて、辰の勢いをもって良い年にしたいと思います。我々一人一人が、それぞれの持ち場で責務を果たすことが、被災地の復興を早める所以でもあると考えます。改めまして、被災地の一日も早い復興を祈るとともに、我々の祈りを被災地に届けたいと思います。本日はお越しいただきありがとうございました。